



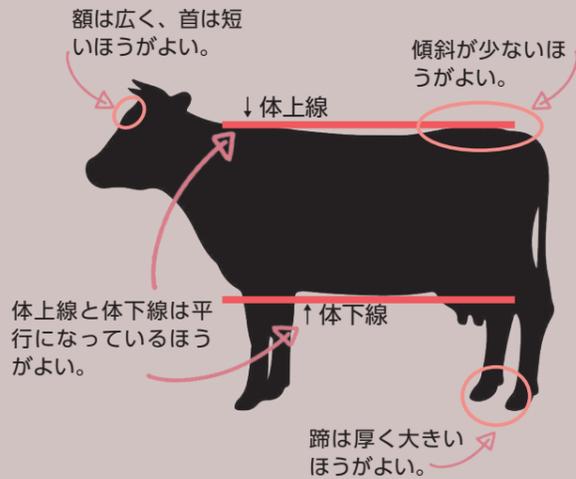
父系群区3席 みき号 福永 一生さん(池野自治会)



若雌2区優秀賞 つとむの6121号 西元 裕樹さん(下自治会)



# 快挙！ 県畜産共進会首席受賞



▲出品者と補助者1名のみが入れる審査場。補助者は、一番良い姿勢で牛が立つよう調整し、審査員にアピールします。

高評価を得て、町内の中野さんの手に渡りました。  
純錦江町産のなずな号が県で1席を獲得したことは、町にとって名譽なことであり、錦江町の牛は質が高い」というイメージアップにつながります。  
今回は、錦江町の牛農家の現在を取材しました。

さらに、もう一人、その様子を嬉しそうに遠くから見つめる人物が——。瀬戸自治会の瀬戸口哲郎さんです。なずな号は、令和4年1月に瀬戸口哲郎さんの牛舎で産まれた牛で、瀬戸口さんにとっては我が子も同然。約9ヶ月間、瀬戸口さんが愛情たっぷりに育て、セリ市に出品。セリ市前子牛品評会にて

なずな号の1席受賞が決まった瞬間、審査場内では中野さんと錦江町役場産業振興課の水流賢一畜産技師が感動の涙を浮かべ、熱い握手を交わしました。二人三脚で勝ち取った悲願の1席。会場に歓声と拍手が響きました。

9月28日、霧島市の始良中央家畜市場で「鹿児島県畜産共進会」が開催されました。県内離島を含む11地区から計69頭の出品があり、錦江町からは地区予選を勝ち抜いた3頭が出場。成雌区で中野和徳さんのなずな号が首席(1席)を受賞。父系群区では、福永一生さんのみき号を含む肝属地区の3頭1組が3席に入賞。若雌2区では、西元裕樹さんのつとむの6121号が優秀賞を受賞し、本町の3頭が大健闘を見せました。

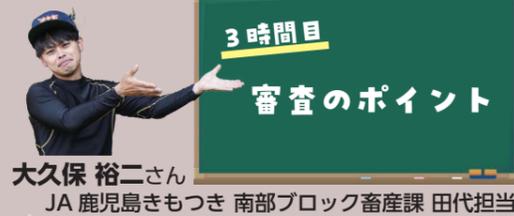
**Point 1 体積** 肉牛として十分な肉量を生産できる子牛を産むためには、母牛にも一定レベル以上の大きさが必要。大きすぎても、小さすぎても×。

**Point 2 均称** 体の各部位のバランスがとれている牛は順調に発育している証拠。頭が大きすぎる、脚が長すぎる、短すぎるのは×。

**Point 3 品位** 輪郭がすっきりときれいで、顔に品があり、雌牛らしさに溢れているかも重要。もちろん太りすぎは×。パッチリな目、大きな口がよい。

**Point 4 資質** 被毛や皮膚に、健康状態が現れるため、要チェック。審査員は触って、肉や脂肪のつき方を確認する。

**Point 5 乳徴** 母乳は子牛にとっての生命線。乳房の容積や質を確認し、子牛を上手に育てられる状態かをチェックする。



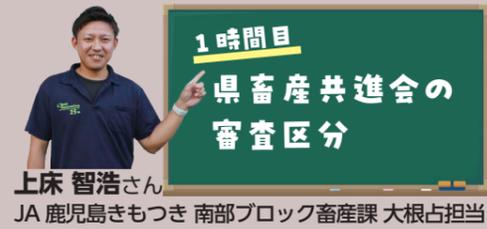
大久保 裕二さん  
JA 鹿児島きもつき 南部ブロック畜産課 田代担当

審査は体の大きさや姿形など、見た目を重視。牛にとって、体の締まり具合、姿形的美しさは、寿命や出産間隔と連動しているため、審査では重要なポイントになっています。  
“美牛”ほど経済性、生産性が高いのです。運動やえさの調整など、個体に応じた管理を行い、理想の“美牛”に近づけていきます。

全国大会は「全国和牛能力共進会」という名称で5年に1回開催されます。別名「和牛のオリンピック」。昨年は鹿児島で開催され、全国から約29万人が来場しました。次回は2027年8月に北海道で開催されます。この北海道大会を目指し、すでに準備を始めている農家さんもいらっしゃるかと。



錦江町役場 産業建設課 畜産技師 上大園 樹主事補



上床 智浩さん  
JA 鹿児島きもつき 南部ブロック畜産課 大根占担当

▼今回の県共進会は4つの区分で審査が行われました。

若雌1区	生後12か月～16か月の雌牛
若雌2区	生後17か月～23か月の雌牛
成雌区	1産している雌牛
父系群区	同じ種雄牛の雌牛3頭1組(生後12か月～23か月の雌牛)

まるわかり！  
単なる牛の「美女コンテスト」ではない！

**畜産共進会**  
畜産共進会とは何ぞや…。錦江町の牛のプロに聞きました！  
これを見れば、畜産共進会を100倍楽しめる☆

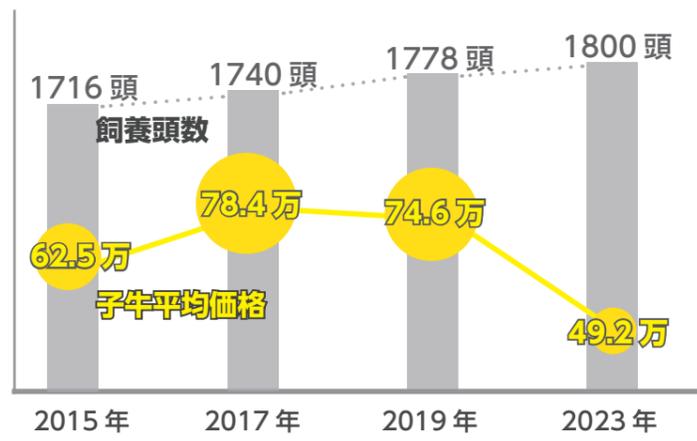
# 密着！ 錦江町の農業を支える牛農家

# 最前線

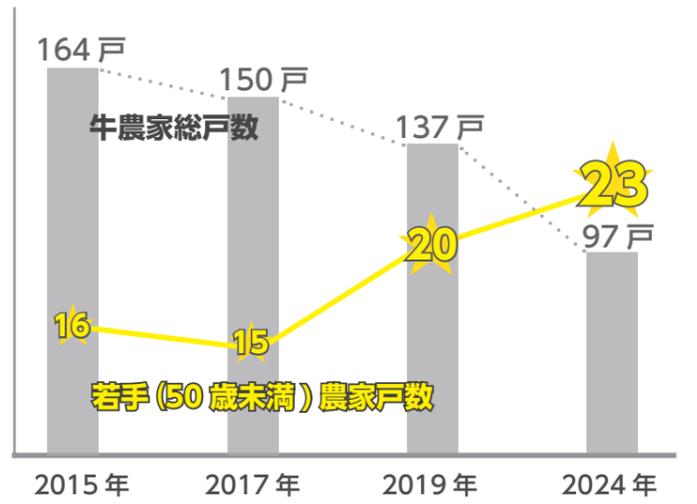
昨今、牛農家を取り巻く環境は芳しくありません。不安定な世界情勢による原油価格やえさとなる飼料代の高騰に加え、物価高による消費者の牛肉離れが加速しています。さらに、高齢化に伴い、廃業する農家も増えてつあります。錦江町でも、20年前には30戸以上あった牛農家が、現在ではその

3分の1以下の97戸となりました。子牛の平均価格も下落の一途をたどっています。昨年度の平均価格49万2千円は、ここ数年の最安値でした。しかし、このような逆境に負けず、錦江町では50歳未満の若い牛農家が年々増えています。今年度の若手農家戸数は23。これは、牛

農家総戸数の約24%を占める割合です。また、錦江町の牛農家の数は自体は減少していますが、頭数はほぼ横ばい。多頭飼育の農家が増えていることがうかがえます。本町の基幹産業である畜産。逆境の中、これからの担い手たちが奮闘しています。県共進会に出品された4名にお話を伺いました。



▲飼養頭数と子牛平均価格の推移 (2015年～2023年)



▲牛農家総戸数と若手農家戸数の推移 (2015年～2024年)



福永 一生さん・未来さん



中野 和徳さん



瀬戸口 哲郎さん・留美子さん

## 始めたからには最後まで

県畜産共進会(以下、県共)で1席を受賞した中野和徳さん(44歳)。牛農家を始めて17年。県共に向けて、毎日朝晩必ずな号を洗い、刷毛がけを行ったそう。大変だったけれど、おもしろかったと語る中野さん。「もちろん、経営は大変。でも、必ずいい時が来ると信じて頑張るしかない。始めた以上は最後までやり遂げないと。」  
 フールに語る中野さんの目は、しっかりと明日を見据えています。

## 自分の取り柄は牛だけ

県共1席のなすな号育ての親、瀬戸口哲郎さん(70歳)。1席が決定したとき、涙を流して喜ばれていました。なすな号の母牛も、県共で1席をとった牛なのだから。なすな号の兄弟たちも高値で売れたり、受胎率が高かったりと優秀。ストレスの少ない環境がいいのかもしれない。三元気なうちは牛を続けたい。自分の取り柄は牛しかないからね。」と語る瀬戸口さん。いつも奥様と二人三脚で、後輩たちへ大きな背中を見せてくださっています。

## 町全体でいい牛を作っていきたい

福永 一生さん(40歳)は、大崎町出身。田代出身の妻の未来さんと結婚後、錦江町へ。「若手の仲間がみんな優しくしてくれるから、今頑張っている。」と語る一生さん。県共に向けた準備はいい勉強になったけど、正直もうお腹いっぱい...と笑います。「自分たちだけでなく、錦江町全体でいい牛を作っていけたら、『錦江町牛』の付加価値がさらに高まっていくと思う。」  
 と未来さん。ご夫婦仲良く、今日も牛にたっぷりの愛情を注ぎます。

## 牛作りは飽きない

西元裕樹さん(33歳)は、独立して今年で4年目を迎えます。「昨年の台風の時、うちの牛舎が土砂崩れに巻き込まれてしまった。そのとき、牛農家の仲間が駆けつけて、チェーンソーで柵を切ったり、牛を出すのを手伝ってくれたりして、本当に助かった。仲間がいるから頑張れる。大変な時だけでも、みんなでいい牛を作っていきたい。牛作りは飽きないです。」と熱く語る西元さん。仲間とともに、錦江町の未来を担ってくれる大きな存在です。



語呂あわせで「1129いいニク」と読めることから制定された「いい肉の日」。もともとは、「より良き宮崎牛づくり対策協議会」という団体によって、宮崎牛の宣伝を目的に制定された記念日なのだそう。現在では、精肉店や焼肉店、スーパーなどが、牛肉の消費促進の一環として、この日にあわせてキャンペーンやイベント等を行っています。

## 牛肉を買ったら要チェック!

国産 牛かたロースうす切り  
 個体識別番号 1234567890  
 消費期限 24.11.29  
 100gあたり 500円  
 内容量 300g

1500円

加工者 ○○スーパー 鹿児島県肝属郡錦江町□□1-1



国内で飼育されたすべての牛に付られている「個体識別番号」。牛肉に記載されている番号をインターネットで検索すると、牛の生産履歴を調べることができます。錦江町産の牛に出会えるかも！